

埼玉の 暮らしと 社会保障

2020年1月1日発行 第285号

(毎月1回発行)

発行 埼玉県社会保障推進協議会

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-1 2-8 自治労連会館1階

TEL 048-865-0473 FAX 048-865-0483

ホームページは「埼玉社保協」で検索ください

みんなの気持ちを寄せ合い創意工夫を凝らして

埼玉県社会保障推進協議会

柴田 泰彦会長



この秋、赤旗のスクープからはじまった『桜を見る会』問題。国会閉会で逃げ切りを図る安倍首相ですが、12月25日の『しんぶん赤旗』は『60』やはり総理枠』と題して、「日本共産党宮本衆院議員が公文書で確認」と報じました。

法政大上西充子教授等が取り組む「街頭国会パブリックビューイング」。今月は「桜」を追及する田村智子議員の国会質問をノーカットで放映。新宿駅西口地下通路に多くの人だかりができたといいます。国民は政治に関心がないのではない、報道の在り方にも改善の余地があるのではないかと。この様子を報道したテレ朝のコメントです。



厚労省が、統廃合を進める対象の公的医療機関を実名公表しました。埼玉県では7つでした。赤字続きだった蕨市立病院は、頼高市政の下で、市内で唯一の分娩できる機能を維持し、130床ある急性期病床を減らさずに平成20年以降経営の再建に成功しています。東松山医師会病院は、地域の開業医とタッグを組んで地域連携型の医療機関として頑張っています。

滑川町は子育て施策（18歳までの医療費と幼保小中学校の給食費無料化）を始めて10年以上。今、子どもや子育て世帯の人口増が顕著です。H12年2,655人であった19歳までの子ども人口がH27年には3,673人と1.38倍に増えています。その後、新座・熊谷・白岡など市部にも広がり、18歳までの無料化実施自治体はすでに東京都を上回っています。いよいよ県の出番です。今年も社保協運動の大きな柱となります。

昨年の総会は、64人が参加して行われました。当面計画されている介護保険制度改悪のメニューを具体的に生々しく語ってくれた花俣ふみ代さんのお話が印象的でした。みんなの関心にフィットする、そしてわかりやすい運動が大事です。年明け早々解散総選挙？との情勢も伝わってきます。政治を変える大きなチャンスです。従来型の運動を脱却して、みんなの気持ちを寄せ合って、創意工夫を凝らして今年も楽しく頑張りましょう。

埼玉社保協第28期(2020年度)役員

埼玉社保協第28期(2020年度)役員		
会長	埼玉県労働組合連合会前議長	柴田 泰彦
副会長	立教大学名誉教授	浅井 春夫
	自治労連埼玉県本部中央執行委員長	畔上 勝彦
	埼玉県労働組合連合会議長	伊藤 稔
	埼玉土建一般労働組合副委員長	武山 辰雄
	立教大学教授	芝田 英昭
	弁護士	中山 福二
	労働者教育協会常任理事	原富 悟
	埼玉県商工団体連合会副会長	菊池 正美
	埼玉県自治体問題研究所事務局長	渡辺 繁博
埼玉県民主医療機関連合会副会長	宮岡 啓介	
事務局長	専従	川嶋 芳男
事務局次長	医療生協さいたま/埼玉民医連	保土田 毅
	埼玉県労働組合連合会	舟橋 初恵
	埼玉土建一般労働組合	段 和志

第28回埼玉社保協総会

2020年を

社会保障拡充への転換の年に



埼玉社保協第28回総会は12月21日埼玉会館で17団体、19地域から計64人の方の出席で開かれ、すべての議案を採択し新役員を選出することができました。来賓には秋山文和県議(共産)からご挨拶をいただき、記念講演会では花俣ふみ代氏が「大変です、介護保険が大改悪」と題するテーマでお話していただきました。

総会では議長に埼玉民医連の高橋正己さん、白岡市社保協の細井宜雄さんを選出、主催者挨拶に立った柴田泰彦会長は「首相主催桜を見る会など安倍政権のデタラメぶりは本当にひどい。この中で社会保障の改悪がすすんでいる。今こそわかりやすく、参加しやすい運動の展開が必要です」とよびかけました。中央社保協など4団体、県知事及び県内26市町の首長からメッセージが寄せられました。

川嶋事務局長が情勢と活動経過の報告、新年度の運動方針案を提案しました。決算報告と予算案の提案のあと、土井清さんが会計監査報告を行いました。

討論では5団体、3地域8人から発言があり、総会方針を深める内容でした。①新座社保協の朝妻幸平氏、「高校3年までの医療費、がん検診、特定検診、高齢者在宅緊急通報装置の4つの無料化を継続される運動」、②年金者組合の老田氏、「埼玉県高齢者大会と高齢者運動の発展と組織強化の訴え」、③和光市の川上豊子氏、「元和光市福祉部長逮捕と介護保険の実態」、④さいたま市の新井薫氏、「国保の改善などさいたま市との懇談を繰り返し行っている。国民年金で入れる特養ホーム120床が実現した。今後は国保税の子どもの均等割負担を軽減させたい」、⑤川口市社保協の東田伸夫さん、「国保税の子どもの均等割負担軽減の署名に取り組んでいる。また、低所得者への国保税、窓口負担軽減の条例化をめざして運動をすすめる」、⑥埼玉商連の菊池正美氏、「先日民医連

と埼玉商連が共同で県国保課と懇談を行った。医療費窓口負担が払えないために治療を中断する実態を告発し、国保の改善を訴えた」、⑦医労連の藤田省吾氏は「公立病院の統合・再編問題では、埼玉県内7病院が対象となっている。病院の病床が無くなれば、地域の崩壊につながるのではないかと危惧している」、⑧原富悟副会長が「国の社会保障費の半分を占める年金は、社会保障の骨格である。年金問題を地域の課題にした運動をつくろう」との発言がありました。

討論の後、情勢と経過の報告、運動方針案、決算報告と予算案と、討論での発言を含め拍手で確認しました。会長に柴田泰彦氏を推薦するなど役員を原富悟副会長が報告、拍手で確認しました。新年度の役員を代表して柴田泰彦会長が挨拶しました。舟橋初恵事務局次長が総会アピールを提案、拍手で確認しました。伊藤稔副会長が「オバマケアに反対するリバタリアンという人達は個人の富は100%自分のものとする考え方をします。現在世界的規模で富の独占が進行しています。これに抗して応能負担を原則する税制で社会保障の拡充をすすめよう」と閉会挨拶を行いました。

1・27新春社会保障学習決起集会

日時 1月27日(月) 開会 18時30分

会場 浦和コミュニティセンター
多目的ホール(パルコ10F)
(JR浦和駅東口下車徒歩1分)

受付18時開始、参加費無料

講演「安倍政権の全世代型社会保障改悪の

ねらいと私たちのたたかい」(仮題)

講師 芝田 英昭氏

立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科教授

第130回運営委員会

日時 1月24日(金)14時

場所 埼玉会館3B会議室

埼玉社保協第28回社保協総会

花俣ふみ代氏が記念講演

認知症の人も家族も、

安心して暮らせるために

介護保険法改正の審議にかかわって



認知症のひとと家族の会副代表で同埼玉県支部代表の花俣ふみ代氏による記念講演が行われました。2020年の通常国会に介護保険法の改正案を提出することを目的に、厚労省の社会保障審議会に介護保険部会(花俣氏の他、財界や労働団体、大学教授など25人で構成)で2019年2月25日から審議が開始されていました。講演の大意は下記のとおりです。

今年は選挙が連続することもあり、介護保険部会の審議は2月から始まったが途中で中断することが多く、しかも9月に設置された「全世代型社会保障検討会議」は介護部会より上位に位置するため、議案の準備の遅れが目立った運営が続いた。しかも参議院選挙が終わった途端に、保険料と利用料の負担増となる提案されて議論となった。

制度改正の議論としては、①介護予防、健康づくり、②保険者機能の強化、③地域包括ケアシステムの推進、④認知症「共生」、「予防」の推進、⑤持続可能な制度、の5点がテーマであった。この中の⑤制度の持続可能性の確保の議論において、利用料負担増の案が次々と提案が出されることになった。最終的に保留となった案があるが、時機を見て実施する課題となっていることから、まったく楽観できない。

- 1) 施設入居者の居住費・食費自己負担引き上げ➡年金収入120万円以上の人で2万2千円の負担増
- 2) 高額介護サービス費の自己負担限度額の引き上げ➡収入要件を3段階にし、世帯上限を引き上げ
- 3) 現在自己負担無しの多床室入所者の室
- 4) 料有料化➡引き続き検討

- 5) ケアプラン作成費用などの自己負担化➡引き続き検討
 - 6) 要介護1、2の介護保険サービスからの除外し、総合事業へ➡引き続き検討
 - 7) 利用料2割、3割負担の対象拡大➡引き続き検討
- 介護にかかわる家族、介護労働者の実態は改善されていない。家族の方が介護のために退職する「介護離職」、



「介護殺人」が続いている。介護事業所の閉鎖、撤退が増加している。人手不足が深刻で、ホームヘルパーも高齢者が多く「老老介護」の実態がある。私たち

「認知症のひとと家族の会」では今年初めて国に対する要望書をつくり関係省庁への要請行動を行った。憲法25条の理念に立ち、認知症になっても安心して、いきいきと生活できる社会保障の充実に求めている。

第28回総会 来賓・メッセージ・祝電一覧(順不同)

来賓 日本共産党埼玉県議員 秋山 文和 様

中央社会保障推進協議会			
東京社会保障推進協議会	会長	須田 昭夫	様
社会保障推進千葉県協議会	会長	鈴木 徳男	様
神奈川県社会保障推進協議会	代表委員	原 弘明様	ほか6人
1 埼玉県	知事	大野 元裕	様
2 草加市	市長	浅井 昌志	様
3 久喜市	市長	梅田 修一	様
4 ふじみ野市	市長	高畑 博	様
5 深谷市	市長	小島 進	様
6 秩父市	市長	久喜 邦康	様
7 八潮市	市長	大山 忍	様
8 富士見市	市長	星野 光弘	様
9 蕨市	市長	頼高 英雄	様
10 志木市	市長	香川 武文	様
11 白岡市	市長	小島 卓	様
12 和光市	市長	松本 武洋	様
13 幸手市	市長	渡辺 邦夫	様
14 所沢市	市長	藤本 正人	様
15 川越市	市長	川合 善明	様
16 朝霞市	市長	富岡 勝則	様
17 鴻巣市	市長	原口 和久	様
18 桶川市	市長	小野 克典	様
19 坂戸市	市長	石川 清	様
20 滑川町	町長	吉田 昇	様
21 上里町	町長	山下 博一	様
22 吉見町	町長	宮崎 善雄	様
23 神川町	町長	山崎 正弘	様
24 寄居町	町長	花輪 利一郎	様
25 松伏町	町長	鈴木 勝	様
26 伊奈町	町長	大島 清	様

憲法 25 条にもとづき、 危機にある国民健康保険を守ろう

中央社保協が「国保・滞納・差押問題学習
交流東日本集会」を開催



12月22日に日本医労連会館で、標記の集会が行われ全国から77人が参加されました。埼玉からも11名参加されました。集会は10時から16時30分過ぎまで行われ、学習講演、各地からの滞納処分問題の報告、滞納処分対策Q&A、そして討論と

続き、たいへん密度の濃い学習会となりました。

神奈川自治労連の神田敏史氏の学習講演は、「骨太方針2019」による社会保障費抑制の方針と国保をめぐる動向について最新の情報や課題を報告していただきました。協会けんぽ並みの保険料(税)に引き下げさせるためにさらなる公費負担増を求めること、誰でも安心して医療が受けられるように資格証明書、短期保険証を発行させないことの課題を提起しました。次に3県からの報告がありました。群馬県からは前橋市などで銀行口座の残高がほとんどなくなるまで差押えている実態、茨城県からは全国初の仕組みである「茨城租税債権管理機構」の実態と問題を告発しました。神奈川県からは横浜市から、今年から条例を改正することなく資格証明書と短期保険証の発行がゼロとなっている経緯や課題が報告されました。

司法書士の仲道宗弘氏は、滞納処分対策全国会議が発行したパンフレット『滞納処分対策Q&A』により、さいたま市などから寄せられた具体的な相談事例と「回答」を解説していただきました。これは昨年さいたま市で行った同全国会議の集会が契機となっています。埼玉社保協の各団体でも、ぜひ常備していただき国保相談や国保改善の運動に生かしていただきたいと思えます。

寺川慎二中央社保協代表委員が集会のまとめとして、①国民皆保険制度の骨幹である国保制度は複雑でわかりづらく学習の重要性を指摘、②住民の運動で自治体の姿勢が変わること、③国の責任で財源を確保すること、など課題を整理し危機にある国保を守る運動をすすめてよと呼びかけました。

記念講演 前川さんと考える日本の教育

～すべての子どもの学習権保障へ、地域で
じいじ ばあば ができることは何か?～

第25回埼玉県高齢者大会に420人が参加



12月2日、さいたま市内で「第25回埼玉県高齢者大会」が開かれ420人以上の参加がありました。オープニングは、年金者組合のみなさんによる「長生きサンバ」。続いて、年金者組合埼玉県本部・執行委員長の宇佐美忠利さんがあいさつと基調報告を行い、来賓として埼労連・議長の伊藤稔さんと埼玉社保協・事務局長の川嶋芳男さんに連帯の言葉をいただきました。

記念講演は、元文部科学省事務次官の前川喜平さんによる「前川さんと考える日本の教育～すべての子どもの学習権保障へ、地域でじいじ ばあば ができることは何か?～」でした。前川さんは、「すべての人に人権があって尊厳を持ち、その一人ひとりで国ができており、国が先ではない。そのために学ぶことが必要、人間らしくするには学ばなければならない。だから、すべての人に学ぶ権利が保障されなければならない」と強調しました。「じいじ ばあば」には、子どもたちを取り巻く人間関係を豊かにすること、親や教師以外で「斜めの関係」での関わる役割をと提起しました。参加者からは、「誠実さが滲み出たお話に感銘した」、「ユーモアも交え、わかりやすいお話で良かった」などの感想がたくさん寄せられました。

午後は4つの分科会に分かれて学びました。安心ネットの石見良教さんの講座「高齢期を穏やかに過ごす“物と心の整理術”」、埼玉県自治体問題研究所の渡辺繁博さんによる講座「まちづくりと交通アクセス」、埼玉県平和委員会の二橋元長さんによる講座「埼玉県内の基地の変化と日米地位協定問題」、笑いヨガ・リーダーの磯崎悦子さんの「笑いヨガで健康に!」は、いずれも盛況で充実した学びとなりました。

(医療生協さいたま・埼玉民医連 保土田 毅)